祝　クリスマス

2024

神への信頼によってこそ、世界を受け継ぐ者となるのです。　（ローマの信徒への手紙４章 16 節）

クリスマスの日、神の限りない深き慈しみを覚えます。
御祝福のもとにクリスマスを過ごされ、
希望のうちに新年をお迎えください。

2024 年 12 月

日本キリスト教会　札幌豊平教会
牧師　稲 生 義 裕
〒062-0906 札幌市豊平区豊平６条３丁目 5-15
℡ 090－8863－7316
Ｅメール contactch@ccj-toyohira.church
ＨＰ https://ccj-toyohira.church

Merry Christmas!

元日の能登、祝いの朝を引き裂いた地震の惨状に動揺し、更にその震度を知って凍る思いがした。中部・北陸・関西電力の珠洲原発建設計画は、1975 年に露見。町は推進派と反対派に分裂をして辛い時期を過ごしたが、28 年後に三電力は計画を撤回。もし原発ができていたなら核物質の大量飛散…。福島第一原発事故を大きく超える夥しい人的犠牲、狭く見積もっても海と関西一円に広がる核汚染が…。輪島朝市のおばちゃんと漁師さん・地元の僧侶が要となって、じっくりと取り組んだ 28 年間の「非暴力抵抗運動」が計画撤回をもたらした。感謝と敬意を表す以外にない。

この地震列島に処分不能の 60 基に及ぶ原子炉を据えてしまった日本が、この年末「脱炭素」を口実に、再度新原発の建設をも含む方針転換。加えて核汚染物質の輸出を検討するなど、もはや貿易以前、「倫理」が問われる。この愚行と傲慢を止められない私たちの在り方が問われている。

北海道では、高レベル核廃棄物の地層処分が「概要調査」の段階に来た。10 万年を“半”減期とする大量の高レベル核物質を安全に保管するとは、100 万年に及ぶ処分作業なのか？成功可能性を全く見通せない計画を真顔で説明するＮＵＭＯ職員は、崩壊必須の「新しい安全神話」の担い手とされている。地に埋葬すべきは、核物質ではない。「未来と命を顧みない」その思想であろう。

沖縄辺野古で防衛省は、海面下 90 メートルの深さにまで及ぶマヨネーズに等しい超軟弱地盤の上に軍用ジェット機の滑走路造成を図る。マヨネーズに巨大な杭 7 万本超を打ち込むという。技術的見通しすら立たない常軌を逸した国家政策は、何かに憑依されているとしか映らない。

その辺野古で、我らの仲間が、軍事基地建設反対の「非暴力抵抗運動」に直接携わっている。その取り組みの尊さに心からの感謝を覚える。

政府もマスコミも、軍拡“不要”を一切言わない。「〇〇有事…」「軍拡は必然」「自国は、自国の軍隊で守る。それが大人(独立国)というもの」「更に強固で緊密な軍事同盟を築いて…」。原子力・軍事・農業・教育など諸政策の中に、実は日本は未だに米軍の統治下にある「見せかけの独立国」であるという実態と、ますます劣化を強いられる日本の姿が表されている。

2024 年札幌豊平教会は、『軍隊を捨てた国、中米コスタリカ』を 2 度に亘って学びました。『剣をさやに納めなさい、剣を取るものは皆、剣で滅びる』(マタイ 26：52)。この日本と世界の悲惨な実状の中で、主イエスのお示しになる道を、具体的に探り求めるためです。

たとえ軍事的攻撃・侵攻を受けたとしても、この暴力行為に対して「非暴力不服従」を生き通す。それには市民の手による外交力の獲得、信頼関係の回復、市民の知恵による政治的経済的自己決定権の確保。事前のあらゆる方策が頓挫して、万が一軍事侵攻を受けた際にも、犠牲を最小限に食い止める道は、非武装とインフラ整備（通信環境維持とシェルター建設、生活・医療物資・エネルギーの確保等）であるとする市民の知恵の結集。暴走する権力に対する「非暴力不服従」の大きく柔かな塊を生み出していきたい。反権力闘争もまた、権力への依存の一形態であることを認識しての「平和の道」(ルカ 19：42）への行動展開を、共にイメージして育んでいきたい。それが唯一なる神のすべての被造物と共に歩む、自由を求める人間の、大人としての責任であろう。みんな、おおらかに大人となって、共に歩んでいきたい。そんな思いで、『軍隊を捨てた国、中米コスタリカ』に学びました。

ところで、「とよひら食堂」や「朝ごはん食堂」は、今夏のコメ不足を多くの皆様のお心遣いによって乗り越え、元気に活動しています。最近の無料弁当の食数は、毎週金曜日に 300 食、毎月一度の朝ごはんには 100 食ほど。年末 27 日金曜日には、年越しそばと赤飯を楽しみ合おうと計画中。暮れの 30 日月曜日には、今年最後の朝ごはん弁当を分かち合います。

この活動において市民の方々も教会員も区別なく、常に「一つ」であることに心からの感謝をおぼえます。食材の工面にお力を貸してくださる方々のご配慮にいつも支えられ助けられております。有難うございます。一年分の深い感謝を申し上げます。

「無料食堂」の取り組みは、神から無償で賜った食べ物を、地上のみんなで共に分かち合う、人間としての極めて原初的・原則的活動です。誰もが共に生き合う文化を生み出していこうとする営みです。神の御意志のもとに、互いを尊び、互いが支え支えられる社会を作り出す取り組みです。

またこれは教会が、過去において戦争を止めず、これに加担してしまったことへの悔恨に基づいて、教会自体が「本当の教会」になるための取り組みでもあります。神以外のものに膝をかがめず、神の御心を生き、隣人を尊び、互いの命と暮らしを支え合う日常を当たり前として生きる「とよひら食堂」の取り組みは、ごく小さなものですが、戦争を真っ向から否定する試みです。私どもは、これを大事にいたします。

『イエスは言われた。「神の国を何にたとえようか。どのようなたとえで示そうか。それは、からし種のようなものである。土に蒔くときには、地上のどんな種よりも小さいが、蒔くと、成長してどんな野菜よりも大きくなり、葉の陰に空の鳥が巣を作れるほど大きな枝を張る。」』（マルコ 4：30～32）

神の御心に適う営みは、小さくささやかなものであっても、やがて大空のどこからも飛来する多様な鳥たちの休息場となり、営巣の場ともなる。「とよひら食堂」は、すべての人の「居場所」となるための小さな種です。皆様の共感によって支えられ、神の御力によって育ちます。

また、この取り組みを通して、どこにでも仲間がいること、誰とでも仲間になれることをも経験しています。主の御心を表す取り組みは、従来の「(制度)教会」の枠を超え、縦横無尽に躍動する「教会」の姿を顕わします。この取り組みを導く聖霊の御力が、すべて良きことの主人公です。

札幌豊平教会は、この Xmas に『神への信頼によってこそ、世界を受け継ぐ者となる』という言葉から、委ねられた歴史創出の責任を確認いたします。